

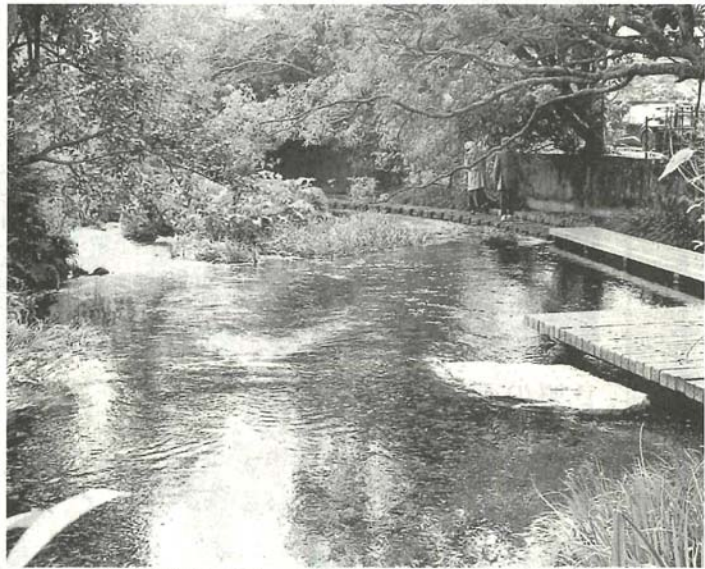
2020年(令和2年)12月23日(水)

# 「水の都・三島」に都市景観賞 環境再生評価

2020年のアジア都市景観賞に三島市の「『水と緑の湧水網都市』創造事業」が選ばれた。「水の都・三島」の環境資源を地域協働で再生させたことが評価された。三島市のNPO法人・グラウンドワーク三島（GW三島）が応募していたもので、国内のNPOの受賞は初。県内の受賞も初めてとなる。

賞は、アジアの人々の幸せな生活環境を築くことを目標に国連ハビタット福岡本部（福岡市）などの4団体が10年に創設。今年は6カ国から24件の応募があった。国内はほかに「環長崎港地域アーバンデザインシステムによるまちづくり」（長崎市）と「線路敷ポードウォーク広場」（大分市）が受賞した。

三島市は富士山を水源とする湧水が各地に湧く「水の都」だったが、1960年代以降、地下水の取水などで湧水が減少、一部の川がドブ川と化した。GW三島は市民と行政、企業が連携する仕組みをつくり上げ、源兵衛川でのゴミ拾いなどに力を入れて清流をよみがえらせた。また、竹が繁茂してゴミが捨てられていた狩野川旧本流の松毛川の河畔林で竹の伐採や植林に取り組み、募金活動などで土地を買収。河畔林を再生、



清流がよみがえった源兵衛川＝三島市芝本町で

【石川宏】